

**製品名: TACC1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18599**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	87kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TACC1
別名	TACC1; KIAA1103; Transforming acidic coiled-coil-containing protein 1; Gastric cancer antigen Ga55; Taxin-1
遺伝子 ID	6867.0
SwissProt ID	O75410
免疫原	抗血清はヒト TACC1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60

**背景**

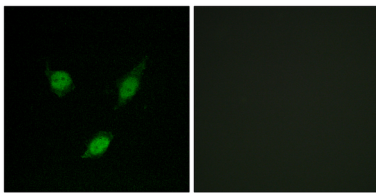
この遺伝子座は乳がんの候補遺伝子である可能性があります。この遺伝子は、一部の乳がんにおいて増幅が認められる 8 番染色体領域

域上の FGFR1 に近接しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 3 つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2009 年 4 月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在する可能性があります、発生段階：初期胚発生期に高レベルで発現します。機能：分化組織の形成に先立つ細胞分裂を促進するプロセスに関与していると考えられます。その他：乳がんの症例の一部においてダウンレギュレーションが認められます。PTM：アイソフォーム 1 は高度にリン酸化されていますが、アイソフォーム 6 はリン酸化されていません。DNA 損傷時にリン酸化される（おそらく ATM または ATR による）。類似性：TACC ファミリーに属します。類似性：2 つの SPAZ (Ser/Pro に富む AZU-1) ドメインを含みます。細胞内局在：間期には核。有糸分裂時には中心体に弱く集中します。サブユニット：KIAA0097/CH-TOG および発癌性転写因子 YEATS4 と相互作用します。オーロラキナーゼ A および B (STK6 および AURKB) と相互作用します。LSM7、TDRD7、SNRPG と相互作用します。GCN5L2 および PCAF と相互作用します。組織特異性：アイソフォーム 1、アイソフォーム 3、およびアイソフォーム 5 は普遍的に存在します。アイソフォーム 2 は脳で強く発現し、肺および結腸で弱く検出され、胃癌で過剰発現しています。アイソフォーム 4 は正常組織では検出されないが、胃癌組織では強い発現が認められた。

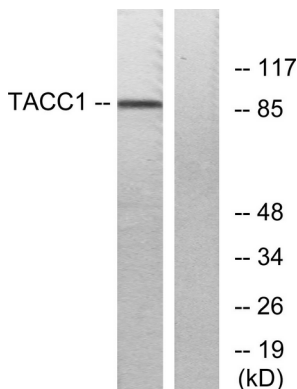
## 研究分野

細胞生物学、細胞周期、マーカー、エピジェネティクスと核シグナル伝達、細胞分化

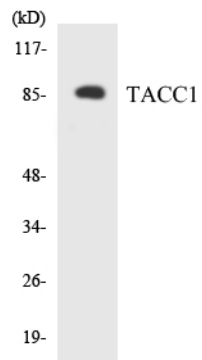
## 画像データ



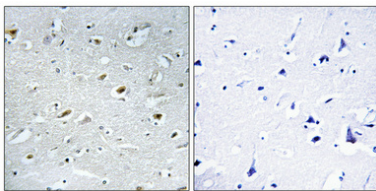
TACC1 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TACC1 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



TACC1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。